

# 10

## 発表・表現に柔軟に対応する 空間と設備

講堂について、スペースの利用効率を高めるため、ステージや座席を可動収納できるよう工夫される例がみられます。また、それぞれの学校のニーズに合わせ、1学年や複数クラスの生徒が一堂に会することのできる大きさの教室やホールを整備することも進められています。



400人収容可能な、大型のスクリーンを設置した多目的ホール。生徒の学習成果の発表や講演、演劇、合唱など幅広く活用されている。(女子聖学院中学校・高等学校)



学年集会のできる広さの多目的ホール。集会、講演、発表など利用形態に応じて椅子は並び替えができるようにしてある。(奈良女子大学附属中等教育学校)



総合選択制高校で整備された130人収容可能な「音楽ホール」。階段状の座席がステージに向かって弧を描いており、音楽の授業以外に、吹奏楽の発表や大規模な会議にも利用できるよう計画された。(木更津総合高等学校)



地域イベントなどへの開放も行う600人規模の多目的ホール。座席及びステージを可動収納式としており、発表の場以外にダンス練習など多目的な利用が可能。(下北沢成徳高等学校)





高い天井や木とコンクリートの素材を活かしたデザインにより、アカデミックな雰囲気を持たせた階段型の「メディアホール」。高窓のブラインドを上げれば自然採光と開放感も得られる。(秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校)



中庭を利用した発表の場「カルチャーコート」。周囲の建物の窓からもステージを観覧することができる。(横須賀市立横須賀総合高等学校)



講堂ロビーの多目的な有効利用をしている例。壁面に作品を展示し、温かみのある雰囲気を持たせたり、ロビー自体がさまざまな活動の準備空間や、練習場になっている。(カリタス女子中学高等学校)

可動座席を備えた講堂。ステージ奥を外部テラスにつながるガラス窓とし、演出の幅が広がるよう、また、ステージ部分を仕切っても使用できるようにしている。(郁文館夢学園)